

植栽環境に適した樹種の選抜に関する研究

【研究概要】

都内の再造林地において、スギ褐色葉枯病と考えられる集団葉枯症の被害が発生した。この病気は立地条件や土壌性質との関連が示唆されており、被害が発生しやすい立地・土壌の把握や樹種転換により被害を防ぐことができる可能性がある。そこで、樹種転換の候補樹種を検討するとともに、被害地の立地条件・土壌性質など被害地の特徴を明らかにし、防除につなげることを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の成果が得られた。

- (1) スギの生育不適地の指標植物であるアセビに着目し、その局地的な生育分布状況を調査し、地形条件との関係を解析した。アセビは尾根地形に多く生育していたことから、この地形はスギの生育に適さない。この地形の特徴をもとに、多摩地域全域のスギの生育不適地予測図を作成した。
- (2) スギ生育不適地を含む同一斜面の異なる3地点を土壌調査した結果、生育が良好な地点に比べ、不良地点は表層の撥水性、保水性等に差がみられ、土中に水が浸入しにくく、乾燥しやすい土壌だった。